

青森県初！全国9番目の木造3階建て校舎見学🏠

令和7年8月19日（火）、木造3階建ての「六戸学園」の見学会に参加してきました。前日には事前学習を行い、国産材の利用状況、建築物における木造率、木材の加工方法について再確認しました。

当日、校舎外の屋根下で受付を待っていると、ふと上を見上げた先に見えたのはLVL（単板積層材）による腕木！そして、フィンガージョイントで接合された集成材を用いた大きなトラス構造！が天井一面に広がっていました。正三角形や正六角形を組み合わせた幾何学的なデザインで、柱のない広い空間を実現しています。

さらに、節の目立つ屋根材からも木の温もりが伝わってきて、校舎に一步入る前から木造建築の魅力を実感しました。

内部に入ると、まず目に飛び込んできたのは、学園のシンボルでもある大階段と、LVLの柱。ミルフィーユのように薄い板が重ねられた断面をあえて見せる設計が印象的でした。通常は壁などで隠されがちな構造部分を、むしろ積極的に見せることで、木材の質感や構造の美しさを際立たせているように感じました。

私の今の仕事は、六戸学園のような木造建築の“原材料”となる木材の生産や供給を支える立場にあります。

しかし、森林管理署の業務の中では、伐採された木がどのように加工され、実際にどこで、どのように使われているのかを身近に感じる機会は少ないため、今回の見学会は非常に有意義なものでした。

今後、こうした木材利用率の高い建築物がさらに増えていくよう木材利用の普及啓発に取り組み、また、「木材が足りない！」という事態に陥らないよう、計画的な伐採と植栽の実行を行っていきたいと思います。

津軽森林管理署 業務グループ 伊藤 春菜



写真1. 正三角形や正六角形を組み合わせたトラス構造

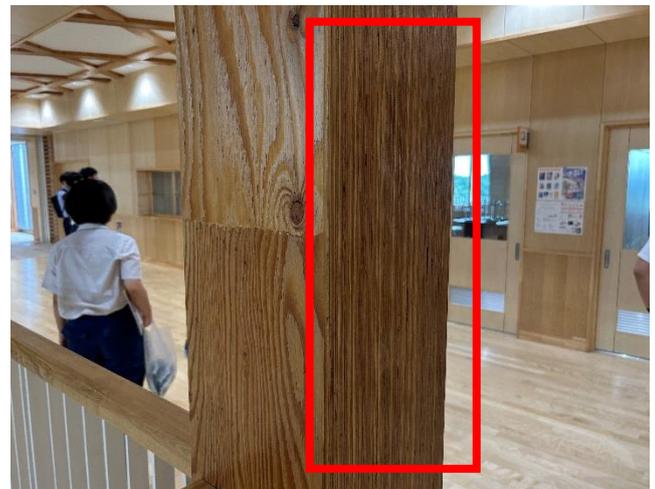


写真2. LVLの柱（ミルフィーユのような断面）